

山下善市・ツル（やましたぜんいち・つる）（1/2）

～松浦漬の開発者～

鯨は北の海から暖かい海を目指して日本列島沿いに南下してきて春が終わるころにはまた帰って行きます。これを通り鯨と呼び、その途中で待ち受けて見張る人たちを山見といいました。発見すれば狼煙や苫を揚げて待機している鯨組に合図をします。すると海と陸合わせて約6、700人の人たちが定められた任務に就きました。

元来この地域には古代から多くの人たちが住み、船や海には馴れていたもので、すぐ目の前を通る大きな獲物を見逃すはずはありませんでした。

沖場では親父船（総指揮者の船）の采配で呼吸の合った仕事をしました。そうでないと必死で逃げようと暴れる鯨を捕らえることはできず、危険もともなうのです。特に刃刺には勇猛な働きが求められました。手刀を口にくわえて鯨に泳ぎ着き、あの巨体によじ登ってとどめを刺し、沈まないうちに持双船（船の間に吊して運ぶ船）に固定するのは大仕事でした。時には夜になることもあり、その時は松明の灯りを頼りに、猛吹雪の中でも威勢のいい掛け声とともに納屋場へと急ぎました。

浜では鯨を抱いた持双船が着くころは、島中の老若男女が歓声の中で迎えます。早速轆轤（ろくろ）にかけて祝い歌と太鼓に合わせて巻き揚げながら大切包丁が入れられ解体が進みます。これらの状況は今日絵巻等に描かれ伝えられています。解体された鯨は、食用はもちろん油は米作りに重用されました。江戸時代も半ばを過ぎるころから網を用いた新技術で成果を上げ、産業として成り立つようになり、人々の暮らしを助けみんなに喜ばれました。鯨がもたらした食文化の中でも特筆されるものの一つは、上アゴの軟骨から取れるあの独特な食感のある松浦漬でしょう。

名産といわれる松浦漬も、決して一朝一夕にできたものではありませんでした。その陰には才気があって働き者の一人の女性がいました。その人は山下ツルといって呼子に嫁いで十男三女の子宝に恵まれた家庭の主婦でした。ツルは副食品作りに興味を持ち、おいしいお惣菜作りに余念がありませんでした。特に味覚に敏感で初めころは、野菜の粕漬や佃煮類を考案して販売することもありました。もちろん身近な鯨にも着目していましたが、生物で日持ちしないのが難点でした。鯨の軟骨もあの大きな体からでも採れる量は極めて少なく、当時は酒のつまみ程度のものでした。試作の途中でも失敗の連続で、不安がよぎることもたびたびでした。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 呼子

◎地図・写真・統計資料など



山下 ツル
(1873～1954)

山下 善市
(1871～1932)



当時の捕鯨の様子を描いた絵巻物

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

山下善市・ツル（やましたぜんいち・つる）（2/2）

～松浦漬の開発者～

～1/2からつづく～

そのころ北の海には、外国の捕鯨船が現れ乱獲し、日本各地の鯨組は衰えて廃業が続き、中尾組も同様でした。呼子では今までの捕鯨組に代えて新しい会社が組織されたり、町に初めて銀行ができたりして、ツルの夫の善市はこれらに投資し、ツルにも積極的な支援をしました。幸いなことに松浦漬に必要な酒粕は善市の実家が酒屋だったので、入手も容易でした。善市は原料の仕入れを確保しツルは商品化するのに熱中しました。これがとても好評で、港町の呼子に出入りする船によって関西にまで運ばれ、広く知られるようになりました。

さらに大正時代にはある大手出版社の事典にも、松浦漬は日本珍味五種のの一つとして紹介され、その名声は全国的なものとなりました。明治25年の発売に始まって、明治末期にはツル自身が初代社長に推されました。その生涯を製法と品質の向上に務め、夫妻はその後郷土の振興や学校教育に対しても、多額の援助もしました。近くの愛宕神社には、ツルのお百度石が今も残されているのを見ると、そのひたむきさがうかがえます。完成後はおなじみの網取りの様子の特許も登録され、仕込みの時は秘伝を守るために、製法は家内工業とされ独特な風味と食感が今も保たれているのです。

初めは女性ひとりの地道な研究から大きな実を結んだのも、夫善市の支援と協力、そして二人三脚の結果が郷土の食文化の傑作となりました。

文人北原白秋も晩年ころに山下邸をよく訪ねました。「水光呼子」の言葉もこのころ生れ、今日の観光呼子の基盤づくりになったのも、善市、ツルの松浦漬が機縁になったとも言えるでしょう。

分野 人物

地域 呼子

◎地図・写真・統計資料など



戦前の看板



山下家本宅一帯

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html